

吉原東中学校の適正化に関する保護者説明会（令和3年12月3日）要旨

会場：吉永第一小学校体育館

事務局より

- ・広報紙による具体的支援策の提案
- ・「令和6年4月編入」及び「編入統合を理由とする指定校変更はできない」の説明

以下、質疑応答（【凡例】○は意見、質問 →は教育委員会の返答）

○富士川第二小学校及び富士川第二中学校が、施設一体型小中一貫校となった経緯を教えてください。

→平成30年に実施した校舎の耐力度調査の結果、富士川第二小学校の建て替えの必要性があることが判明しました。そこで、中学校側に校舎を移転し、併せて施設一体型の小中一貫校を開設することとなりました。施設一体型は、校舎の建て替えの時期及び学校規模が条件を満たすかどうかにより、実施できるかどうかが決まります。

○吉永地区で施設一体型の小中一貫教育を実施する考えはなかったか。

→校舎の建て替えの時期及び学校規模を検討した結果、吉永地区の4校では施設一体型の小中一貫校の開設は、現段階では考えていません。

○「編入統合を理由とする指定校変更ができない」ということだが、編入統合が決まっている学校に通う子どもたちにとっては、不安を抱えたままの生活が続くことになる。吉原東中で学ぶか、吉原三中で学ぶか、選択肢があるべきではないか。30人の生徒が15人になったとしても、クラスはあるので影響が少ないように思うが。

→選択制を認めると、吉原東中の生徒数が大きく減ってしまう可能性があります。そうなると、2年生や3年生の教育環境が今までと大きく変わり、十分な教育が保障できなくなってしまう恐れがあります。また、子どもたちが分かれてしまうと、かつてのように地区の分断を生む恐れもあることから、指定校変更はできない方向で検討しています。

○生徒数が極端に減少する可能性があるのは、わずか2年間である。その間の教員が確保できないのであれば、行政として覚悟し、市で雇えばよい。中学校の統合というのは、それぐらい非常に重大なことであり、譲れるところはしっかり譲ってもらいたい。法律上、様々な制約があることは理解できるが、行政として十分に検討してほしい。

→市の負担で教員を雇用し、配置することは可能だが、教育活動のしわ寄せは、子どもたちへ行くことになってしまいます。また、委員会活動などで、上級生が下級生に教えるといった教育活動が困難になってしまいます。

○どこかの学年の子どもたちに負担がいくならば、この学校統合の話は「なし」でいいのではないか。

→この話は、市として吉原東中学校で学ぶことになるだろう子どもたちの、更なる豊かな学びのために検討しているものです。学校統合に当たっては、子どもたちの負担をできる限り少なくしたいと考えています。

○現在の中学1年生にとって、編入統合は唐突な話であるとあった。編入統合の予定があるなら、私立中学を希望する家庭もあると思うが、そうしたことを考えてくれているのか疑問である。この時期に伝えられても、私立を受けるには準備期間が短すぎる。私立中学への進学を検討するといった家庭への配慮について、市ではどのように考えているか。

→私立中学を選択するといった方への配慮が足りないのではないかという指摘に対しては、お詫び申し上げます。

○教育委員会で「指定校変更はできない」としたのはいつか。

→指定校変更について、「できない」と方針を変更したのは、11月です。

○在校生や小学校5、6年生にアンケートを実施したとあったが、どのようなアンケートを実施したのか。

→編入統合に対し、子どもたちがどのような不安をもっているのか、またその不安にどのような支援ができるかを検討することを目的として実施しました。質問項目や文言については、実施目的や実施方法とともに、4校の校長先生と一緒に検討をさせていただきました。このアンケート結果を踏まえて、令和5年度からでは早すぎるのではないかという結論になった次第です。

○アンケートは対象の校長へ丸投げしているのではないか。学校統合の動きがあることを話して、アンケートを取っているのか。

→アンケートは、校長先生方と文言を含めて検討しました。教育委員会が学校へ出向き、子どもたちから説明してから実施する案も検討しましたが、編入統合についての動きは、校長先生から先生方に伝えてもらっているため、子どもたちの成長段階や理解度をよくわかっている担任の先生が実施した方がよいと判断しました。

○原田小、吉原三中の子どもたちにとっても、環境の変化があり、不安を感じている子どもたちもいるのではないかと思う。その点については、どのように考えているか。

→原田小、吉原三中の両校の校長先生へ、この件に関して子どもたちへの説明をお願いします。また、両校のPTAの方々への説明、町内会長やまちづくり協議会へも説明を行っています。

○こうした話が子どもたちへは何も伝わっていないように思う。受け入れる側となる吉原三中の生徒の心の準備も必要である。

→時期も含めて、編入統合が決定したわけではないので、決定事項として子どもたちに伝えることはできませんが、決定後、速やかに子どもたちに伝えてまいります。

○編入統合に対して、子どもたちがどのように考えるかを把握したのなら、それに対する対策を行っていくべきではないか。

→アンケートは、子どもたちの思いを把握するために実施しました。その結果を対策に反映しています。

○愛知では中学生の殺人事件があったばかりだ。最悪の状況になることも考えてほしい。学用品はそのままでもいいという話があったが、吉原東中の生徒が吉原三中へ行くと、少数派になる。学用品代を市として用意すべきではないか。

→現在、使用しているものが使えないというわけではなく、今後も使えるよう学校側に働きかけています。ただし、学用品の支援についての要望は、他の方からも御意見をいただいているので、市でも前向きに検討していきます。

○指定校変更について「柔軟に対応する」と言っていたが、「須津中にいきたい」と言ったら、「それはできない」と言われた。とても「柔軟な対応」とは思えず、子どもたちのことやそれを見守る保護者のことを考えているのか疑問に思うが、教育委員会としての考えを伺いたい。

→指定校変更については、様々な説明会で「柔軟に対応する」と回答しておりましたが、いただいた御意見を精査し検討した結果、指定校変更を認めた場合、在校生を含め全ての生徒の学びを保障することが困難になることから、「指定校変更はできない」という提案に変更させていただくことになりました。就学指定校は地域ごとに決めており、どちらの学校が近いかという観点から決めておりません。そのため、「吉原三中よりも須津中の方が近い」という理由で指定校変更はできないと返答させていただきました。

○学校統合の問題がなければ、吉原東中で何も問題はなかったし、須津中への指定校変更などという気もなかった。吉原三中か須津中か安全面を考えた結果である。そうした変更はできないかと聞いたときに、学区は決まっているという回答が柔軟であったのか、どうしても腑に落ちない。

○結局「今の5年生、6年生については指定校変更できない」「吉原東中に入学して、2年生、3年生になるときに吉原三中へ行く」と決まりました、としか聞こえない。5年生、6年生及び保護者の大多数が編入を希望しなかったら、そうした人たちが納得する形の答えをだしてほしい。段階的に卒業する方法はできないと話があったが、それでもという思いが5、6年生にあればそれに応えてほしい。教員の確保などは、吉原三中から呼び寄せればよい。

○学校統合の話が具体的に提案されて、概ね半年が経過している。統合までのスケジュールはどうなっているか。

→編入統合の決定をするのであれば、令和4年の4月までには、子どもたちを含め、関係する方々へ伝えていきたいと考えております。そのためには、今年度中には決定をしていく必要があります。

○早く決定して、正式に子どもたちに伝えられるといい。富士市の財政的な面もあるのではないかと推測する。そうした説明もあってよいのではないか。生徒会活動を含め、後輩・先輩の関係がある学校生活はすごく楽しいだろう。指定校変更を許可して、それが望めない状況になるのは非常に辛いのではないか。吉原三中へ行く友達と別れるのがつまらないと言っていた子どもも、ふたを開けてみたら、それなりに吉原東中の学校生活を楽しんでいる。編入統合が心配だという気持ちもわかるが、それによって子どもたちがもっと楽しくなるかもしれない。

○編入統合するのであれば、吉原東中の先生方をそっくりそのまま吉原三中へ移れないかという話があった。「吉原東中学校から吉原第三中学校へ、計画的な教職員の人事異動を行い、生徒の不安に寄り添えるよう努めます。」とあるが、これがその回答ととらえてよいか。

→できる限り配慮していきたいという記述のとおりです。教員同士のつながりを強くしておくという意味でも努力していきたいと考えております。